ＪＲ東海労ニュース

№1747
2012年9月24日
ＪＲ東海労働組合

自衛隊・海兵隊共同訓練
防衛に名を借りた強襲訓練だ！

９月21日の『東京新聞』で、自衛隊と米軍海兵隊のグアム島共同訓練が報道されました。海兵隊といえば「敵地」に真っ先に切り込む役目を持つ軍隊で、侵攻の最前線部隊であり、戦争仕掛け人といえる部隊です。それが自衛隊と訓練を行うということは、自衛隊に侵攻のノウハウをつける、言い換えれば自衛隊が海外にいつでも侵略できる力を持たせることを意味します。自衛隊の存在はもちろん憲法違反ですが、拡大解釈によって唯一防衛のため存在を許されている部隊が、侵略のための活動しようというのです。着実に戦争準備が進められているのです。

陸自に海兵隊機能

グアム 米と強襲上陸訓練

9．21 東京新聞

上陸作戦を強行する際、最前線に投入される米国の海兵隊。尖閣諸島をめぐり、中国との緊張が高まる中でこの海兵隊のような役割を自衛隊に持たせようという動きが強まっている。陸上自衛隊はグアム島で、沖縄の米海兵隊と共同訓練中。「専守防衛」が国是の自衛隊に「殴り込み部隊」は必要なのか。（編集委員・平田崇、社説❸面）

八月から九月末までの予定の共同訓練で、中心はグアム島での強襲上陸訓練だ。参加しているのは、九州・沖縄の陸自西部方面隊四十人。米軍の呼び掛けに応じた。ほかにも、防衛省では陸自に水陸両用作戦能力を持たせるための基礎固めが始まっている。米国の水陸両用車四両を来年度予算で参考品として購入する。

七月のテレビ番組で石破茂防衛相は「海兵隊創設」を訴え、森本敏防衛相は「島しょ部防衛は水陸両用作戦能力を持てば、防衛できる」とした。

陸自で米海兵隊に一番近いのは九州・沖縄の離島対処のため、二〇一一年に創設された西部方面隊普通科連隊（長崎県佐世保市）。二ヘリコプターで移動し、目的の島が近づいたらゴムボートに移り、上陸する。

ただ任務は情報収集にとどまり、本格的に戦うのは海上自衛隊の輸送艦でやってくる別の部隊だ。戦闘しながら上陸する海兵隊のような能力は持っていない。

海兵隊の必要性が加速したのは四月。日米安全保障協議委員会（2プラス2）で「効果的な共同訓練」などが打ち出された。米国からすれば、共同訓練を通じて米軍との相互運用性が高まれば、自衛隊を中国包囲網に組み込むことができる。

陸自幹部の一人は「どんな島でも部隊を事前展開できれば海兵隊は必要ない。ただ、日本の政治判断が遅れるのは確実なので、海兵隊機能を持っていた方がよい」といい、背景にシビリアンコントロールへの不安があるとした。

ゴムボートから米強襲揚陸艦にロープを投げる陸上自衛隊＝11日、グアム島近くの太平洋上で（陸自提供）

憲法違反の現行犯

米海兵隊は第二次世界大戦中、ガダルカナル島や硫黄島、沖縄など上陸戦の主力を担った。空と海から爆撃、砲撃を加えた後、海岸に橋頭堡（ほ）を築い

て上陸用舟艇や水陸両用車、対地攻撃の航空機など新たな装備が必要。こうした兵器は陸上自衛隊が水陸両用作戦能力を持てば、決議で海外派兵を禁じる軍隊の中で最も外国遠征型の組織で、日本にあってはならない、憲法違反の現行犯みたいなものだ。米国が他国を攻撃する際に派兵する集団的自衛権の行使にも近づきかねない。

離島の奪回が目的とされているが、それには上陸用舟艇や水陸両用装甲車、対地攻撃の航空機など新たな装備が必要。こうした兵器は陸上自衛隊が水陸両用作戦能力を持てば、決議で海外派兵を禁じ、専守防衛を掲げる自衛隊の原則に明らかに反する。

グアムなどに派遣されている部隊は、米西海岸での強襲訓練にも参加している。今回の演習はその延長線上にあるが、外国で行う上陸訓練に国民の合意が得られたとはいえず、筋が通っ、軍事的手段ばかり考えず、冷静に対処すべきだ。（談）

島しょ防衛に必要

陸・海・空自衛隊の他に海上保安庁も、一緒に行動している空自と海自には協力を惜しまないが、陸自を海兵隊的に使う装備や訓練は必要。日本から南洋の島々に攻撃に行くことはあり得ないが、尖閣諸島など南西諸島に、中国の特殊部隊が漁民を装って上陸することはあり得るからだ。陸自は上陸してきた敵と戦う訓練はしてきたが、海から陸に上がる力はなかった。米軍から南方に変わっており、今回の訓練は抑止力として、もっと早く行うべきだった。外国を攻めるなら別だが、日本の国土を取り返すのは憲法違反ではない。訓練を強化し、早く逆上陸の能力を持たなければならない。（談）

きだが、できない以上、グアム島やテニアン島でするしかない。

冷戦終結後の一九九五年ごろに脅威は北方から南方に変わってきた。

戦争準備が着実に進む恐怖！
「いつか来た道」は許さないぞ！

現在、オスプレイ配備をめぐって問題が発生していますが、明らかにこれとリンクした策略であるといえます。

戦争で犠牲になるのは、いつの時代も労働者・一般市民です。

「いつか来た道」は労働者が声を出さなければ、また繰り返すばかりです。ＪＲ東海労は、全ての戦争政策に反対です。